



Adobe® Acrobat® 3.0J 5月9日より発売開始

【1997年4月22日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都渋谷区 代表取締役社長：木村 八郎）は、あらゆる種類のドキュメントをオンラインで共有することを可能にするAdobe Acrobat 3.0J（Windows®版 / Macintosh™版）を5月9日より発売すると発表いたしました。

Adobe Acrobat 3.0JにはPDFファイルの作成・加工・表示・プリントを行うための全てのツールがひとつのパッケージに収められていますので、ユーザはワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション、ページレイアウトなどの各種ソフトウェアで作成されたドキュメントを元のデザイン体裁を崩さずにインターネット、企業内イントラネット、電子メール、CD-ROMなどの電子メディアで配信することが可能になります。

Adobe Acrobat 3.0Jで作成したPDF (Portable Document Format) はMicrosoft® Windows 及び Macintosh といった異なるプラットフォーム上で、Adobe Acrobat Readerを使用して同じ体裁のまま閲覧することができます。閲覧用ソフトウェアであるAcrobat Readerはアドビシステムズのホームページなどを通して無償配布しています。さらにPDFファイルはPostScript®(ポストスクリプト)技術を基盤に開発されているため、画面上での表示はもちろん電子配信後にプリントしてもポストスクリプト言語ファイル同様、高品質な印刷が可能です。

Adobe Acrobatはアドビシステムズ社が提唱し、一般に公開しているPDF形式のドキュメントファイルを使用します。ワードプロセッサをはじめとする各種ソフトウェアを使用しているユーザは、通常のプリントコマンドを実行する手軽さで、PDFファイルを作成することができます。すなわちプリンタへのプリントアウトが可能なソフトウェアであればすべてPDFファイルが作成可能であり、特別なファイル変換などのわずらわしい操作は一切不要です。

米国では既に、Dial-A-Book, Inc.（ダイアル・ア・ブック社）やAccess Magazine（アクセス誌）などで数多くのサービスが実施されております。

日本においても、さまざまな情報提供が始まっています。NTTプリンテック株式会社では電子商取引の実証・実験プロジェクトの一つとして、インターネット上でのオンライン電子出版サービスの可能性を探るため、NTTソフトウェア研究所が開発した情報流通



プラットフォーム "Infoket" を利用して電子出版実験を行っています。PDF による記事や書籍を中心に、ソフトウェア、クリップアート等の画像を含め、多様なデジタル情報が提供されています。また、ニフティ株式会社のオンライン情報サービスでも Adobe Acrobat が利用されています。

日本銀行では金融経済統計資料の 3 月短観のうち「概要」および「業種別計数」を PDF で配布しています。同行のホームページでは、すでにマイクロソフト株式会社の Excel や Word で作成されたドキュメントの電子配布を行っていましたが、今回 PDF ファイルが新たに採用されました。

Adobe Acrobat はドキュメントのオリジナルデザインを忠実に再現するばかりでなく、ハイパーリンク、動画の再生、さらには WWW へのリンクなど、電子ドキュメントならではの機能を付加することも可能です。

今回発売する Adobe Acrobat 3.0J では、より豊かな内容のドキュメントを WWW 上で利用できるように機能を拡張しました。Netscape Navigator™ のプラグインアーキテクチャや、Microsoft Internet Explorer 3.0 をはじめとする ActiveX™ 技術をサポートする WWW ブラウザで直接 PDF ファイルを表示することが可能です。

さらに、Adobe Acrobat 3.0J で最適化された PDF ファイルは、それぞれのページが個別に扱われるため、データのダウンロードの効率が向上します。ページを表示するのに必要なデータだけをダウンロードし、ページ上の個々のオブジェクトを優先順位に基づいて順番にレンダリングします。最適化された PDF ファイルでは、テキストがまず最初にレンダリングされ、画像などの大きなオブジェクトはバックグラウンドでダウンロードして最後にレンダリングされます。

Adobe Acrobat の PDF ファイルを表示または印刷するための Acrobat Reader 3.0J (Windows 版 /Macintosh 版) は、アドビ システムズ 株式会社のホームページ (<http://www.adobe.co.jp/international/jpacrodown.html>) で無償配布しております。また、Electronic End User License Agreement (使用許諾契約書) を添付する限りにおいては、どなたでも無制限に再配布が可能です。

米国などではすでにその表現力の豊かさと、簡便な使い勝手により、WWW 上の標準ドキュメントフォーマットとして広く使用されております。その実例はアドビ システムズ 株式会社のホームページ (<http://www.adobe.co.jp/product/acrobat/pdf.html>) でご覧いただけます。



Adobe Acrobat 3.0J の主な特徴

各種ドキュメントファイルのデザインを維持したまま電子配信可能

ワードプロセッサやページレイアウトソフトウェアなどで作成されたファイルを Acrobat Distiller™ で PDF ファイルにすることにより、テキストやグラフィックスの大きさや位置など、オリジナルのドキュメントファイルのデザインを維持したままインターネットをはじめとする各種電子メディア上で配信可能です。しかも、Microsoft Windows や Macintosh など機種ごとの文字エンコードやグラフィック形式にとらわれません。

ファイル内のテキストの選択や検索が可能

PDF ファイル内のテキストやグラフィックスを選択して他のアプリケーションソフトウェアにコピー & ペーストしたり、ファイルから指定したテキストを検索することが可能です。またセキュリティーを設定してテキストやグラフィックスを再利用できないようにすることも可能です。

ポストスクリプト技術に基づいた高精彩なグラフィック表現が可能

PDF ファイルはポストスクリプト技術を基盤としているので、WWW の HTML で使用されている GIF 形式ではできない、拡大時の高精度な再現が可能です。

各種圧縮技術によりネットワーク上での配信を効率化

LZW、JPEG などの圧縮により、1/10 ~ 1/40 程度のファイルサイズに収められるので社内 LAN やインターネットでの配信に最適です。

簡単にオーサリングやプレゼンテーションが可能に

PDF ファイルに変換されたドキュメントは Acrobat Exchange™ を使用することでページの中にリンクのホットスポットを作成することができます。ホットスポットをクリックすると同ファイルの別のページや別ファイル、さらには指定した URL の Web サイトにジャンプできます。Acrobat Exchange を使用するとワードプロセッサなどで作成した文書を元にプレゼンテーションやオーサリング用のファイルが作成できます。

マルチメディアリンク機能によりドキュメントに動画を添えて配信可能

PDF ファイルにはサウンドや動画などのマルチメディア素材をリンクすることができるので、紙のメディアでは伝え切れない内容を伝えることができます。

ポピュラーな WWW ブラウザ内で直接表示可能

Netscape Navigator の API プラグインアーキテクチャあるいは Microsoft ActiveX 制御をフルサポートしている WWW ブラウザのウィンドウ内で PDF ファイルを直接表示することができます。

WWW リンク機能により電子メール、CD-ROM などのメディアと WWW を結合

PDF ファイル中に WWW などインターネット上のコンテンツへのリンクを設定できるため、WWW の HTML ファイルと PDF ファイルはシームレスに行き来が可能になります。

オンデマンドによるページ単位のダウンロードと優先順位に基づくレンダリング

PDF ファイルはデータがページごとにオンデマンドでダウンロードされるため、WWW 上でも高速にアクセスすることができます。さらに、必要な場合にはテキストを先にレンダリングし、次にハイパーテキストリンク、イメージという優先順位に基づいて画面表示が行われます。



パッケージ構成

Adobe Acrobat 3.0J には PDF ファイルの作成・加工・表示・プリントを行うための全てのツールがひとつのパッケージに収められています。パッケージの種類はWindows版およびMacintosh版それぞれのシングルユーザパックと、Windows版・Macintosh版が同梱(10ユーザ)されているパッケージの3種類があります。また発売開始に合わせて、英語版 Acrobat Distiller 2.1 (Macintosh版の Adobe Illustrator 5.5J 及び Adobe PageMaker 6.0J に付属)ユーザへの特別提供を、アドビ製品正規販売元を通じて行います。この特別提供パッケージは Adobe Acrobat 3.0J と同じ内容となっております。

価格と発売時期

Adobe Acrobat 3.0J は、1997年5月9日に発売を開始いたします。希望小売価格はシングルユーザパック (Macintosh版/Windows版共) が、39,800円、10ユーザパック (Macintosh版/Windows版が同梱) が、198,000円です。また、英語版 Acrobat Distiller 2.1 (Macintosh版の Adobe Illustrator 5.5J 及び Adobe PageMaker 6.0J に付属) ユーザへの特別提供価格は18,000円です。上記製品は全国のアドビ製品正規販売元を通じて販売されます。

必要システム構成

Microsoft Windows 95 と Windows NT™ 4.0 の最小システム構成：

Intel486®またはそれ以上のプロセッサを搭載した NEC PC-9800 シリーズ、
または DOS/V コンピュータ

Windows 95 日本語版または Windows NT 4.0 日本語版

Acrobat Reader : 8MB (16MB : NT) 以上の RAM

Acrobat Exchange : 8MB (16MB : NT) 以上の RAM

Acrobat Distiller : 16MB (24MB : NT) 以上の RAM

40MB の空き容量のあるハードディスク

CD-ROM ドライブ

Apple® Macintosh と Power Macintosh™ の最小システム構成：

68040 またはそれ以上のプロセッサを搭載した Macintosh または Power
Macintosh

Apple®漢字 Talk™7.5 または Mac OS7.6J

Acrobat Reader : 5MB 以上のアプリケーションメモリ

Acrobat Exchange : 6MB 以上のアプリケーションメモリ

Acrobat Distiller : 8MB 以上のアプリケーションメモリ

40MB の空き容量のあるハードディスク

CD-ROM ドライブ



Acrobat 開発キット

Acrobat 3.0J は、OLE2.0、DDE、AppleScript、Apple Events、をサポートしているので、さまざまなアプリケーション環境に容易に取り入れることができます。Acrobat を拡張または他のアプリケーションに統合するためのアプリケーション プログラム インタフェイス (API) を含む、Acrobat 開発キットは今後提供される予定です。Acrobat 開発キットには、プラグインモジュールの作成、他製品と Acrobat との統合、Acrobat の特定機能の強化、Acrobat の制御を行うソフトウェアの例題および技術資料が含まれています。Adobe Acrobat 開発キットの提供及びプラグイン開発等のサポート開始 (日本国内で対応) は 97 年の中頃を予定しております。

Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) は、1982 年に創設され、米カリフォルニア州サンノゼの本社を拠点に活動を展開しています。アドビは電子メディアによる書類の作成・表示・印刷・伝送などを実現するソフトウェアやコンピュータ技術の研究開発を行っています。自社技術をコンピュータ機器や印刷機材の大手メーカーへライセンス供与するほか、コンピュータで利用可能なフォントやアプリケーションソフトウェアの開発も行い、ヨーロッパと環太平洋地域の拠点からの販売網を通じて世界各地に製品を提供しています。アドビシステムズ株式会社は、1989年に設立されて以来、世界中の製品メーカーとの協力により、日本市場向けポストスクリプト製品の開発に携わると共に、Adobe Illustrator®、Adobe Photoshop®、Adobe PageMaker®、Adobe Acrobat をはじめとする各種アプリケーションや書体の開発、販売、サポートを行っています。

製品に対するお問い合わせ先

株式会社システムソフト	Tel : 092-752-5264
株式会社ソフトウェア・トゥー	Tel : 03-5676-2177
株式会社メディアヴィジョン	Tel : 03-3222-6841
株式会社大塚商会	Tel : 03-5280-5615 (Windows 製品のみ)
マイクロウェアハウスジャパン株式会社	Tel : 0462-28-0812 (Macintosh 製品のみ)

(マイクロウェアハウスジャパン株式会社は、5月6日より電話番号が変わります。Tel : 03-3708-8130)